



・発行者・
京都障害者
スポーツ振興会

題字 芝田 徳造

特集 全国車いす駅伝競走大会

全員でつないだタスキ

(三重県代表)三重チーム監督

大井 和夫

昨年に続き、この歴史ある全国車椅子駅伝に出場できたことを、チーム一同誇りに感じております。また、障害者スポーツに対して、ご尽力されている京都障害者スポーツ振興会の皆様に感謝するとも敬意を表したいと思っております。

今大会、三重県チームは2度目の出場でした。昨年は三重県にとつて初めてのチーム結成・初めての駅伝ということでも、選手も「完走できるのか」「繰上げスタートにならないか」と、不安を抱えながらのスタートでしたが、全員が無事タスキをつなぐことができた、19位という我がチームなりの大健闘でした。今まではほとんどの選手が個人競技しか経験していません。ため、タスキをつなぐこと、一丸となって最後まで完走

できたことに大きな喜びと達成感を感じ、素晴らしい時間を過ごすことができました。その経験が今年までの1年の選手のモチベーションに大きく繋がっていると思えます。パラリンピックで活躍した伊藤選手と田中選手、マラソンで大きく力をつけてきている小林選手、車椅子バスケットで活躍する稲葉選手、昨年マラソンに復帰された田中選手のご主人が、同じチーム、又は他の競技でそれぞれがそれぞれの目標を持って一心に取り組む、合同練習でチームワークを高めてきたため、昨年のような不安はなくタスキをつなぐことができましたように思います。

今年のチームの目標は「去年より順位を上げること！」。レースの世界というだけあ

つて力を出し切れず悔やむ選手、役割を果たせて安堵の選手、全ての選手でつないだ結果で、昨年を上回る17位という成績を残すことができました。昨年と同じメンバーで同じ目標に向えた事が今日の結果に繋がったと思います。チームの中心選手を抱える我がASSA TICは、小中学生より一般健常者と障害者の陸上クラブです。陸上競技が好きで活動している部員たちにとって、障害者である彼らが大きな目標に向つて真剣に、そしてとても楽しそうに取り組んでいる姿は励みとなり、大きな影響を与えられています。そんな部員たちに刺激を受け、車椅子ランナーたちも背中を押されています。

チーム内で毎年よく雑談で言い合っている「君は隠れ玉や、隠れつばなしじゃあかんで！」という言葉。実は選手全員がこの言葉にいちばんプレッシャーを感じているようにも思う、素直でがんばり屋のチームです。チーム一同、来年もこのすばらしい大会に参加できることを心待ちにしています。

最後に、大会役員の皆様をはじめ、ボランティアの皆様、サポーターに感謝と敬意を表したいと思います。今後ともこの大会が尚一層発展することを祈念しております。

第21回全国車いす駅伝競走大会成績
日時 平成22年2月21日(日)
コース 国際会館〜西京極
京都Aチーム2連覇

(着順で掲載しています)

京都A	46分20秒
大分A	47分13秒
大阪	48分00秒
福岡	49分28秒
長野	50分40秒
神戸市	51分23秒
東京	52分23秒
高知	52分52秒
横濱市	54分41秒
茨城	55分12秒
岡山	55分36秒
名古屋	56分04秒
宮崎	56分47秒
静岡	57分20秒
沖縄	59分29秒
大分B	59分58秒
三重	1時間0分5秒
京都B	1時間0分42秒
仙台市	1時間1分24秒
兵庫	1時間1分53秒
愛知A	1時間2分5秒
長崎	1時間2分11秒
福井	1時間2分44秒
九州ブロック	1時間3分30秒
山口	1時間3分33秒
鹿児島	1時間4分37秒
埼玉	1時間8分37秒
愛知B	1時間13分36秒

選手のみなさんお疲れさまでした。沿道で声援を送って頂いた市民の皆様、ありがとうございました。

行事予定	3月	14(日)	446回障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは 4 / 11 第2日曜日
		28(日)	乙訓障害者スポーツのつどい	長岡京市立スポーツセンター	
			220回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
	4月	10(土)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
			フライングディスク講習会 スタッフ全体会	京都市障害者スポーツセンター 京都市障害者スポーツセンター	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2010年1月31日に一部更新)				TEL/FAX075-712-7010	

スポ振ルネサンス 24

「心でつなぐ活動を」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

「スポ振ルネサンス(再生)」というテーマで、昨年4月からこの連載として書き始めてから、早くも今月で24回、2年が過ぎました。この間、振興会活動の理念の、より原点に立って障害のある人々のスポーツ活動の支援をして欲しいとの信念から、善きも悪しきも赤裸々に、様々な観点から率直に皆さんに訴えてきました。

今回は、2年間の区切りとして嬉しかったことを書いてみようと思います。

ひとつ目に嬉しかったことは、今年の1月、久しぶりに府立体育館の「障害者スポーツのつどい」に行つて来ました。私の勤務の都合で、なかなか行くことが出来ず、日頃、振興会スタッフの皆さんに協力を呼びかけている自分としては申し訳なく思っています。

府立体育館のアリーナにいますと、京都市障害者ス

ポーツセンターのプールでは自身の健康のために泳いでいる姿はたまに見るが、「つどい」のような場では、近年、見かけたことのないH君がヒョッコつと入ってきたので、「どういふ風の吹き回しやねん。」と声を掛けると、「セリターで人から今日つどいがあるって聞き、懐かしう思い、おおよそ30年ぶりに来た」とのこと、いろいろと話しているうちに、彼の方から、「子育ても一段落して時間的にゆとりが出来たので、「つどい」のスタッフとして振興会活動に参加したい」という言葉が出たので、早速、担当者に言つて参加してもらふことになりました。

これは、結果的に40年近い振興会活動の成果といつても過言ではなく、心から喜ぶべきことと思ひます。

そして、ふたつ目に嬉しかったことは、皆さんもご承知のとおり、先月21日に開催された、「第21回全国車いす駅伝競走大会」において、私たち関係者はもちろん、府・市民の皆さんの期待と応援に添えて、地元「京都Aチーム」が、見事

2連覇を果たしたことでした。

昨年は、関係者誰しもが予想もせず、また、ゴールとなる西京極陸上競技場のゲートをくぐつてからもなお、多くの競技関係者が確信していた予想に反して「大分Aチーム」を、わずか数秒という頻差でしたが見事かわして優勝しました。今回は、1分近いタイム差をつけての完勝でした。

先月号で、「京都Aチーム」の選手諸君に失礼かも知れないが、出来れば、今年も優勝して2連覇を果たして欲しい。」というように書いていたことを、お詫びするとともに、こんなに良い結果を残して昨年以上に感動を与えて貰つたことに感謝したいと思います。

地元京都での車いす競技(特に走技)環境などの様々な練習条件が不十分で整わない中での快挙ですから、何もいうことがなく、素晴らしい一言に尽きます。

これは、府・市民から送

声援があつたことにも増して、練習環境など整わない中で、前年の覇者としての意識を持ち、自信を身につけて来たからこそ、様々な自らを取り巻く壁を乗り越えて練習し研鑽を積んで来た結果なのです。

この勢いを継続し続けて、更なる自信と意欲を持つて練習し、チームワークを強固にして3連覇を果たして欲しいと思います。

最後に、年度の区切りとして一言。

毎年、各部から簡単な活動報告が出され、年に一度の全体会でスタッフに配られて、皆が目にするところですが、単なる報告だけでなく、その年度の事業目標、事業経過、事業結果、事業精査、次年度事業目標の過程が明確でなくても済んでいるように思ひます。

これは、私も含めて、報告書の提出を求められて、慌てて付け焼刃的な報告書を作成しているからではないでしょうか。

日頃から、一つ一つの事業について、しっかりと文字にして残しておかないと、次につながらないのでは、作れないのではないのでしょうか。

おめでとうございます

日本障害者スポーツ協会
功労賞

服部清輝
筒井忠彦
野田悦子

京都府スポーツ賞
優秀賞

江島大佑 北村有里
西原宏明 用田竹司
和田伸也 鈴木恵子
水谷哲也

未来君賞
一ノ瀬メイ

京都府スポーツ賞優秀賞
京都市スポーツ特別大賞

車いす駅伝京都Aチーム

寒川 進
中田達也
用田竹司
西原宏明
澤村聡一

【お礼】

2003年から「点字版つどい」を作成していただいている点訳サークル・マイルが今月末で活動を辞められ、す。点訳だけにとどまらず、

視覚に障害のある人の情報のバリエーションなど貴重な意見やアドバイスを頂きました。大向久子さん・山本修司郎さん本当にありがとうございます。